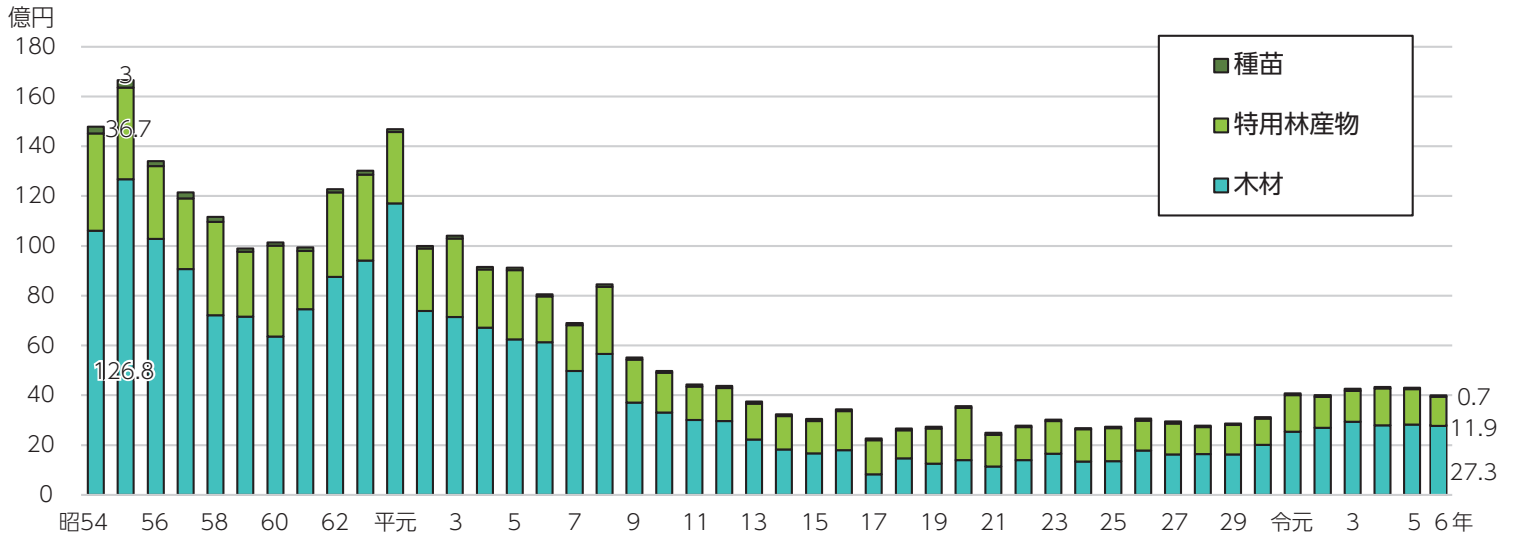




## Ⅱ 林産物の生産

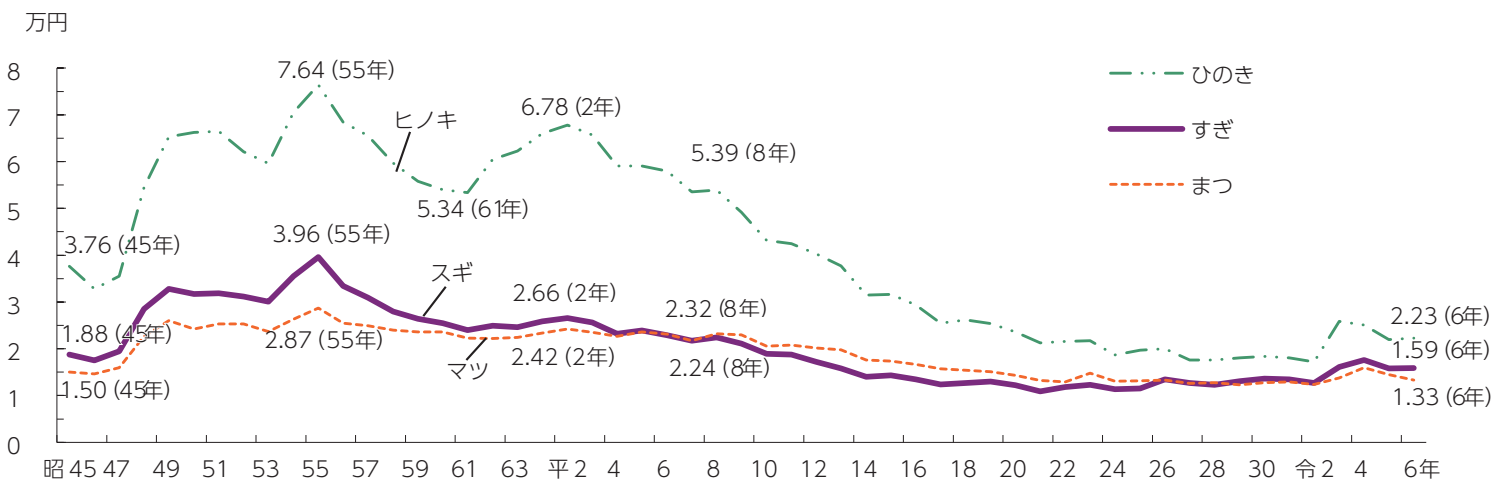
- 令和6年の京都府の林業産出額は40億円で、その内訳は、木材生産額が27億円、特用林産物生産額が12億円、種苗生産額が7千万円となっています。
- 木材生産額は昭和55年をピークに減少傾向が続いてきましたが、近年は素材生産量の増加等に伴い微増傾向となっています。

林業生産額（昭和54年～令和6年）



資料：林業振興課（森林政策・流通係（木材）、林業経営強化係（特用林産物））、森の保全推進課（モデルフォレスト推進係（種苗））

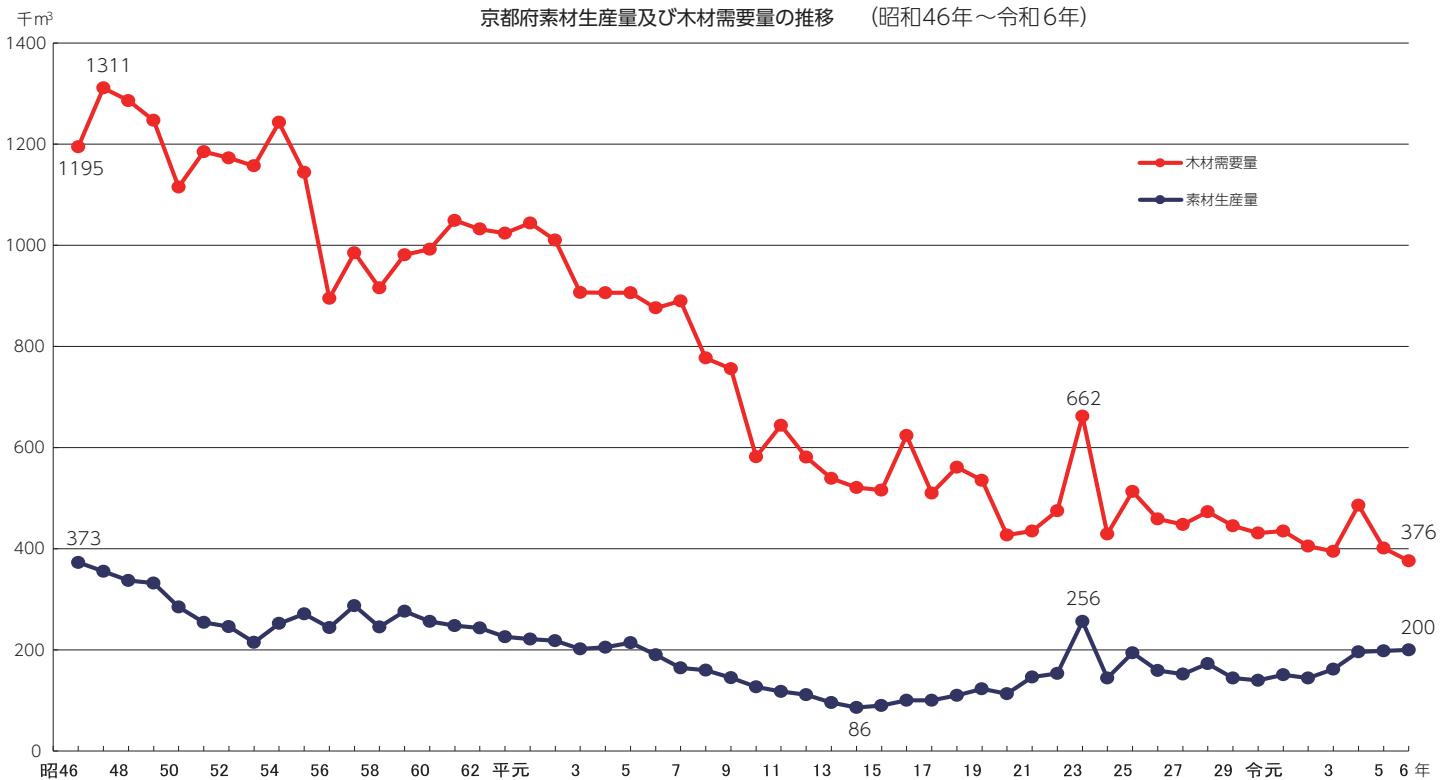
1m<sup>3</sup>あたり年平均木材価格(全国)（昭和45年～令和6年）  
〈国産材丸太・製材用〉



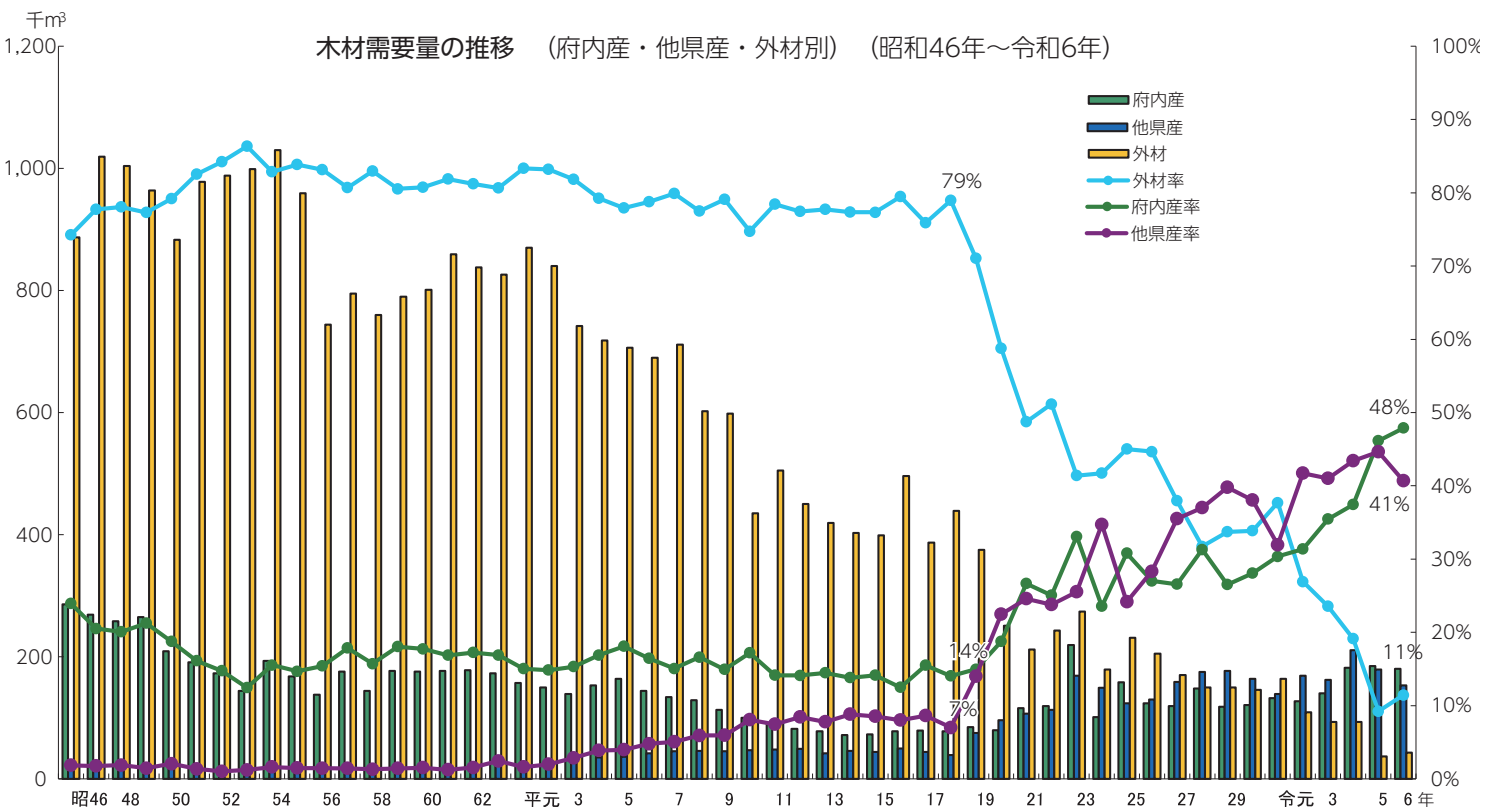
注 昭和52年までは、スギ・ヒノキ・マツ共通で丸太・中（20～28cm）を採用していたが、53年より規格の変更があり、スギ・ヒノキでは14～22cmを、マツでは24～28cmを採用している。

資料：「農林水産統計 木材価格」（農林水産省大臣官房統計部）

- 府内の素材生産量は年々減少していましたが、平成 14 年以降持ち直し、令和 6 年の素材生産量は 20 万 m<sup>3</sup> となっています。
- 府内の木材需要量は令和 6 年で 37 万 6 千 m<sup>3</sup> であり、平成 18 年以降、上昇傾向にある府内産材率は 48% となっています。

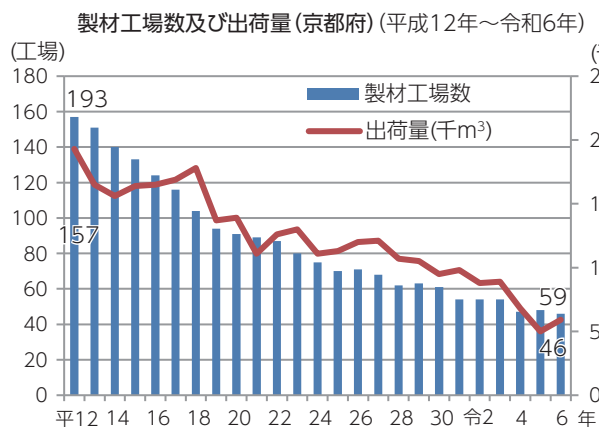


資料：林業振興課森林政策・流通係  
注 令和4年値から燃料用木材を含む

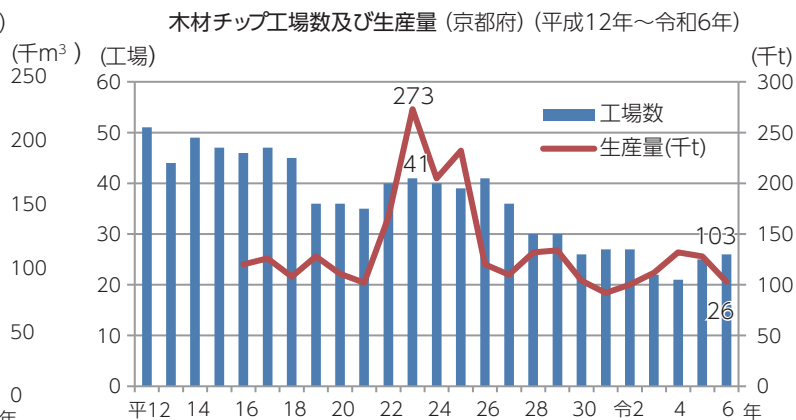


資料：林業振興課森林政策・流通係

- 製材工場数は年々減少傾向、チップ工場数は横ばいの状態となっています。また、令和6年の製材工場の出荷量は5万9千m<sup>3</sup>で年々減少傾向、木材チップの生産量は10万3千トンで微減傾向となっています。

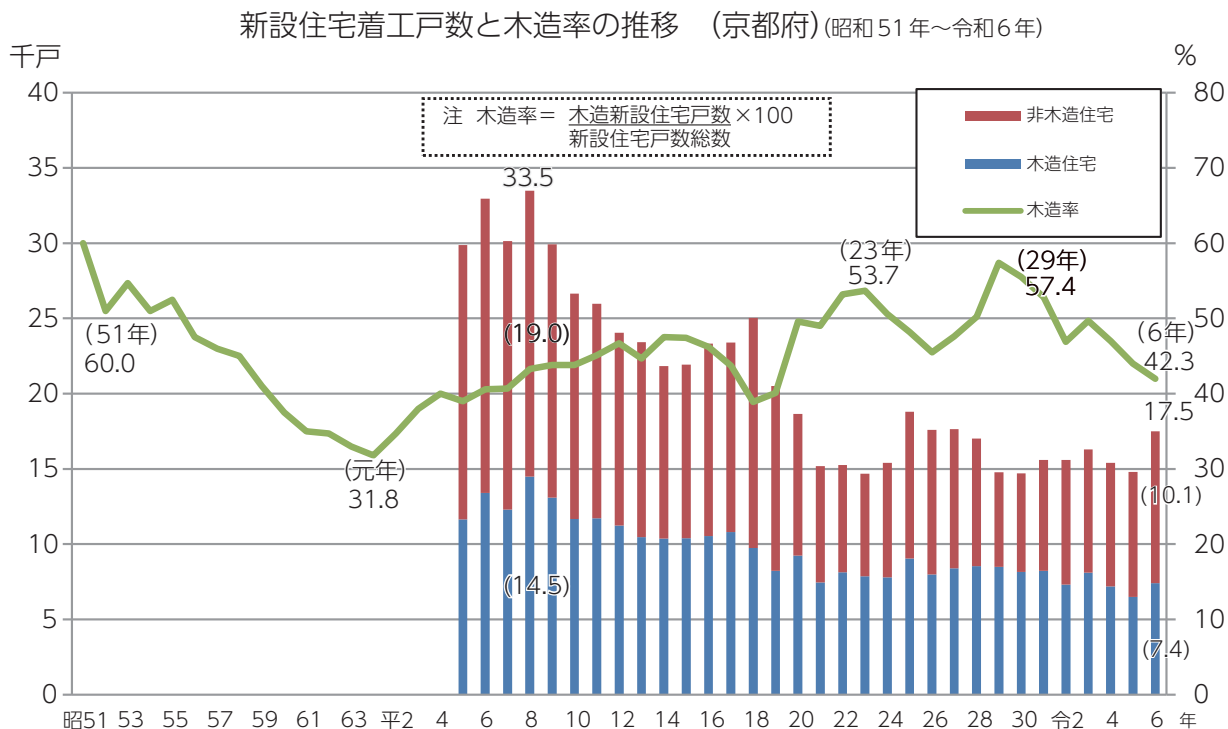


資料：「農林水産統計 木材需給報告書」  
(農林水産省大臣官房統計部)



資料：「農林水産統計 木材需給報告書」  
(農林水産省大臣官房統計部)

- 木材の最大の需要先である新設住宅の着工状況は、平成8年以降減少傾向であり、令和6年の京都府の新設戸数は約1万7千戸となっています。そのうち木造住宅は約7千360戸で、木造率は42%となっています。
- 標準的な木造住宅(2階建て総面積120m<sup>2</sup>)の木材使用量は約23m<sup>3</sup>といわれており、令和6年の府内の新築住宅で約16万9千m<sup>3</sup>の木材が使用された計算になります。



資料：「住宅着工統計」(国土交通省)

- 府内産の特用林産物は、丹波まつたけや丹波くりなどに代表され、良質なものであるとして市場等で高い評価を受けています。
- まつたけの生産量は、松くい虫によるマツの枯損や林家の高齢化等からその生産量はピーク時の1%未満で推移しています。くりの生産量は、生産者の高齢化や減少等からピーク時の10%程度で推移しています。

